



<施設の概要>
 所在地：沖縄県那覇市赤嶺・金城地区
 主：沖縄県土木建築部都市モノレール建設室
 施工：●県道那覇内環状線道路照明工事(その1～その8)
 (その1) 知念電気工事(株) (その2) 大和電気(株)
 (その3) 日進電気土木(株) (その4) 日章電気工事(株)
 (その5) 神田電機工事(株) (その6) 石川電気工事(株)
 (その7) 金城電気工事(株) (その8) (有) 光和エンジニアリング
 ●赤嶺駅交通広場照明工事(その1) (その2)
 (その1) (有) 大永電設(その2) (有) 大新電設工業
 ●小禄駅交通広場照明工事 昭和工業(株)
 竣工：●県道那覇内環状線道路照明工事(その1～その8)
 (その1～その5) 平成14年12月
 (その6～その8) 平成15年6月
 ●赤嶺駅交通広場照明工事(その1) (その2) 平成15年7月
 ●小禄駅交通広場照明工事 平成15年7月

地域性を重視したデザインポールで昼間の景観に配慮。 高効率ランプの採用とタイムスケジュール運転で省エネ

■沖縄県初の軌道系交通機関

沖縄都市モノレール(ゆいレール)は、全国で唯一鉄道のなかった沖縄県に構想から30年あまりを経て平成15年8月10日に開通した沖縄県初の軌道系交通機関です。運行するのは県や那覇市が出資する第三セクターの沖縄都市モノレール(株)で、始点の那覇空港駅から終点の首里駅までの15駅(営業距離12.9km)を27分で結ぶ県民待望の定時定速・大量輸送機関の導入により、慢性化する都市部の交通渋滞緩和をはじめ、駅周辺や沿線開発による地域活性化が期待されています。

主要駅である赤嶺駅および小禄駅には、関連事業として、モノレール利用者の車での送迎の乗り降りやタクシーの待合場所として交通広場が計画され、交通広場の車道部と歩道部には、それぞれ交通状況を把握するための視環境の確保と歩行者に対する安全と円滑な利用に配慮した照明設備が導入されています。車道部用の照明設備は、利用者へのグレア防止を考慮するとともに、昼間の景観を重視した地上高さ10mのデザインポール(2灯用)を広場中央に設置。歩道部には沖縄特有の琉球石灰岩調の石材塗装を施した地上高さ4.3mのデザインポールに、防汚効果が得られる光触媒膜付の灯具を採用し、清掃メンテナンスのコスト削減を図っています。

なお光源は、車道部用に効率の高い高効率高圧ナトリウムランプを、歩道部用には演色性が高く爽やかな白色光の高効率メタルハライドランプを採用し、深夜はタイムスケジュールによる間引き点灯で経済性に配慮しています。

■照明コンセプト

Lighting design concept

- 歩行者の安全と円滑な利用に配慮した照明設備
- 光触媒膜付灯具や間引き点灯による省エネ・省コスト



小禄駅交通広場



琉球石灰調ポールの街路灯



ゆいレールのシンボルマークが入った道路灯

■主要照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
車道部	道路照明灯(2灯用)デザインポール10m	HW-4040改	4基	180W高効率ナトリウムランプ
歩道部	歩道用照明灯 デザインポール4.3m	HG-33700(S)W-T2改	25基	250W高効率メタルハライドランプ